

「ヘレン・ケラー」

□ なぜヘレン・ケラーの本を選んだかと言うと、

だからです。

□ ヘレンは2才のとき重い病気で目と耳が不自由になりました。耳が聞こえないので、話すこともできません。

もし私が、目も見えなくて、耳も聞こえない病気なら、

です。

□ ヘレンが7才のとき、サリバン先生と出会います。サリバン先生に会う前のヘレンは、

です。サリバン先生はヘレンに

を教えます。

サリバン先生 / ヘレンは、

で、

とても大変 / すごいこと / ○○○じゃないとできないこと

だと思いました。

もし私がサリバン先生 / ヘレンなら、

だと思いました。

□ もしヘレンがサリバン先生と出会わなかったら、

だと思いました。

□ 言葉を理解したヘレンは、もう学校・ろう学校で学び、16才でケンブリッジ女学院に入学しました。20才で

大学に行きました。私は目が見えず、言葉が聞こえないヘレンが学ぶということは、普通の人が学ぶよりも

と思いました。

□ 三重苦のヘレンのことは本や舞台・映画になったので、たくさんの人がヘレンのことを知りました。

ヘレンは何度も日本に来ました。私はこの本を読むまで、

ということしか / ということまでは知りませんでした。

□ もしヘレンと会うことができたら、

してみたい / 聞きたみたい / について話してみたいと思いました。

□ この本を読むことで、ヘレン・ケラーについて

ということを知りました。

□ 一番感度した / 記憶に残った / みんなに教えたいことは、

です。

なぜなら、

だからです。